ISSN 1883-3748

環境教育研究マネジメントセンター

News Letter

第8号 2010.10.25

長崎大学環境科学部
URL：http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/
Tel&Fax：095-819-2720

■夏・秋に雲仙市でフィールド体験！

雲仙百年の森の下草刈りのようす

日本一長い足湯のある雲仙小浜温泉

雲仙Ｅキャンレッジプログラムの一環である、雲仙市をフィールドとした「地域力再生プロジェクト」。第２回目は、７月24日（土）、同市小浜町南木指へ学生・教員総勢約25名で向かい「雲仙百年の森の下草刈り」「竹細工づくり」の体験活動をおこないました。

地元の地域団体「山彦の会」の方々の慣れた手つきを見ながら、学生たちも草刈り機を操作したり、切り出した孟宗竹をナイフやのこぎりを使いながら箸やカップを作ったりしていきました。日頃ナイフを使う経験等、ほとんどなくなった学生にとって、道具を使いものを作り出す経験は貴重なものになります。帰りは、日本一長い足湯を楽しみ、疲れを癒しました。今度は、脇浜温泉浴場（1937年築のたてものは、間もなく県の景観資産に登録される予定です）に入ってみたいと、皆で話に花が咲きました。

第３回目の稲刈り＆掛け干し体験は、10月10日（日）におこないました。学生と教員あわせて11名と地元の受け入れ団体「山彦の会」の事務局長・岩下忠行さんをはじめとする雲仙市小浜町の方々５名とで鎌による手刈りをおこない、最後は雀除けのネットを被せて一連の作業を終了しました。

次回は、11月３日(水)に唐箕などを使った脱穀体験を実施します。次回は、環境科学特別講義Ｂの履修学生も合流しておこなう予定です。

橘湾を眺む緩傾斜の棚田で活動

■夏・秋に雲仙市でフィールド体験！……1
■随想　―小値賀滞在記―……2
■連載　インタビュー 環境科学部プロフェショナル②　…3
環境科学部ゼミめぐり⑥ 吉田(謙)ゼミ　……4
長崎まちエコ探検 ⑥ 丸山公園の龍馬像　……4

■随 想　―小値賀滞在記―

五島列島北端に位置する小値賀（おぢか）では、観光客が一般の家庭に宿泊する「民泊」事業が展開されている。地元住民との交流を目的にした観光では、単に景勝地をめぐったり買い物をしたりするだけでは分からないその土地の魅力を知ることができる。

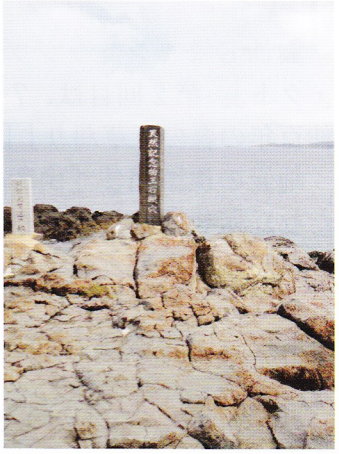
佐世保港を出発して約3時間。面積12.22㎢の小さな島、小値賀の本島に到着した。港のターミナルで地図をもらって近くの古い漁師町を散策すると、昔ながらの細い路地や瓦屋根の家々が立ち並んでいた。ターミナルに戻りしばらく待つと、宿泊先の家族が港まで迎えに来てくれた。

集落にある路地景観

小値賀町は、小値賀本島中心として大島、野崎島など17の島からなる。人口は約3千人で、1950年代の約11,000人をピークに現在は減少傾向にある。過疎化が進む中、島を活性化するために考え出されたのが、「アイランドツーリズム」（島暮らし体験事業）であった。運営はNPO法人おぢかアイランドツーリズム協会がおこなっており、観光客は漁業・農業体験や民泊、古民家での滞在などができる。

今回は、漁業を営んでいる家に泊まることになった。車で小さな集落まで移動すると、庭先で犬が尻尾を振って出迎えてくれた。台所には今朝獲ったばかりの新鮮な魚であふれており、さばき方を教わりながら刺身を盛り付けていった。夕食は、魚料理を食べながら家族の方々と様々な話をして楽しんだ。地元の方とこんなにゆっくり話ができるのも民泊ならではだなと感じた。

国指定の天然記念物・ポットホール（甌穴）



小値賀町の中核産業としては、漁業が挙げられる。漁場ではブリ、イサキ、タチウオなどが獲れ、漁船漁業が盛んである。しかし近年は、資源の減少や魚価の低迷、燃油価格の高騰、後継者不足などの課題も抱えている。

小値賀の海が映える夕焼け

翌朝は、小さな漁船に乗り漁に連れて行ってもらった。15分ほど海原を進むと、昨日網を仕掛けておいたというポイントに到着。網を引き上げていくと、様々な種類の魚が30匹ほど網にかかっていた。民泊先のお父さんと一緒に魚を網から外しながら、昔と比べて魚の値段が格段に下がったことや、漁業仲間も高齢化で今は動いていない船もたくさんあるということを教えていただいた。近年、日本の漁業は様々な問題を抱えているとは報道等では聞いていたものの、実際に働いている方から話を聞くと、その苦労が身にしみて感じられた。

今回の民泊では、たった2日間という間で多くの貴重な体験をすることができた。あなたも、地元の方との交流を目的とした旅で新たな地域の再発見をしてみたらどうだろうか。

（取材 =3年 木下智美）

■連 載

学生が聞き手のインタビュー企画

環境科学部 プロフェショナル

第2回　小林 寛 先生

――“希望”これは長期的に努力をすることによって叶うと思います。――

―学生時代に何か熱中していたことはありますか？

小林先生　「高校の頃から大学2年の秋まで、スケートボードをしていました。町の広場でスケートボードをしている人を見かけて、とてもかっこいいなあと感じたのがきっかけでした。」

―なぜ弁護士を目指そうと思ったのですか？

小林先生　「社会正義や人権の擁護という弁護士の使命や、法律で人を救う職に憧れたからです。また、高校生のときに見た『家裁の人』という裁判官が主人公のドラマの影響もありました。」

―環境問題に興味を持ったきっかけは何ですか？

小林先生　「学部時代の物理の授業がきっかけでした。先生が環境問題を授業で取り上げて話をされたときにとても衝撃を受け、自分も何かの役に立ちたいと考えるようになりました。」

―アメリカのロースクールに留学経験がありますが、なぜ留学しようと思ったのですか？

小林先生　「環境法の勉強をしたいと思い留学を決めました。また、英語を上達させて仕事の幅を広げる目的もありました。」

―大学の先生になりたかった理由と、これからの目標を教えてください

小林先生　「環境問題を、弁護士の取り扱う仕事の一部としてというよりも、研究者として特化して環境法を研究したかったのです。これまで土壌と海の分野を取り扱ってきたので、さらに生物多様性や気候変動など研究領域を広げていきたいと思っています。」

―最後に、学生に一言お願いします

小林先生　「こうなりたいという希望を持って、その希望を達成するために計画を立てて実行する必要があると思います。もしも、なかなか希望が見つからない時は、色んな人に会って話しを聞いたり、趣味を頑張ったり、本を読んだり、ぼーっとする時間も必要だと思います。

そうやってある程度時間をかけて自分なりの行動をすれば、希望も見えてそれに近づくのではないかと思います。」

―ありがとうございました

センターからのお知らせ

❐ボランティアを募集しています❐

環境教育研究マネジメントセンターは、学生や地域の方など読者のみなさんの力を必要としています。このニューズレターの企画・作成の補助や発送作業、学生みずからが企画しておこなう課外のフィールド活動などに興味のある方、まずはお気軽に深見までご連絡ください。

—学生リレー企画—環境科学部ゼミめぐり ⑥〈吉田(謙)ゼミ〉

北海道出身の吉田先生は、農水省などを経て2009年にはるばる長崎大学へ赴任されました。現在、10月11日（月）から始まったCOP10の先端で活躍しています。先生の「生態系サービスの経済評価」が国際的に評価されており、世界各地の代表と世界規模の環境政策を検討されています。他にも、気候変動、農業、森林整備など多くの環境問題に取り組まれています。そして、世界を飛び回っておられるので他国の興味深い経験談を聞くことができます。

今年度のゼミ生は、1期生である3年生5名のみです。前期のゼミでは、自分が興味を持つ環境事例を各々調べ、発表して、皆で内容を共有し議論しました。その際には、先生が解説してくださり理解を深めました。ゼミでは、やりたいことを話し合いで決めて進めているので学年によって変わることもあると思います。たとえ理系の分野でも問題ありません。

先日、一泊二日のゼミ旅行で長崎県南島原市に行ってきました。そこでイルカウォッチングをしたり、棚田を見に行ったりと自然体験を楽しみました。興味を持った方は、気軽に足を運んでください。歓迎します。

（3年 伊藤かおり）

長崎まちエコ探検⑥　丸山公園の龍馬像

かつて花街としてその名をはせた、長崎市丸山町。そこにある丸山公園に、新たな観光の目玉として2009年11月15日に龍馬像が建立されたのをご存知ですか。

長崎丸山の風に吹かれながら闊歩した龍馬の姿をイメージして製作されたもので、今にも動き出しそうな佇まいをしています。

この龍馬像は、細部から凝った作りになっていて、龍馬の「三種の神器」である、懐中時計、ブーツ、ピストルが揃っているほか、台座には家紋を挟んで二匹の龍が描かれています。しかも、2匹の龍の尻尾が、後ろの方でハートを形作っているのです。

大河ドラマ『龍馬伝』ブームに沸いている長崎。丸山公園で、龍馬がいた時代に思いをはせることができるのではないでしょうか。（取材 =2年 江口 美里）

□■編集後記■□

第8号をお届けします。予定より1か月遅れての刊行となりましたが、今号もセンター学生ボランティア3名の協力のもと、充実した紙面作りができたのではないかと考えています。／本センターでは、広報紙の発行のほか、学生参加の環境学習プログラムの企画立案・実施、地域環境に係る調査研究をおこなっています。広く皆さん方のボランティアを募っていますので、お気軽にご連絡いただけると幸いです。／ニューズレター第9号は、12月25日付で発行予定です。（深見）

環境教育研究マネジメントセンターNews Letter（第8号）
2010年10月25日発行
長崎大学環境科学部環境教育研究マネジメントセンター
〒852-8521 長崎市文教町1-14
URL http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/
Tel&Fax 095-819-2720（深見聡研究室気付）
E-mail fukami@nagasaki-u.ac.jp
（編集長：深見 聡）
印刷：(株)インテックス